

Q 5 : 児童・生徒指導を推進する上で、保護者との連携をどのように図ったらよいか。

A : 児童・生徒指導の充実を図るためには、学校と家庭が連携・協力して取り組むことが不可欠である。特に以下のような点について保護者の理解と協力を求めていくことが大切である。

保護者との具体的な連携

1 児童・生徒指導方針に関する情報発信

(1) 児童・生徒指導方針等の周知

- ・入学や学年当初の児童生徒・保護者に対する児童・生徒指導に関するガイダンス時に、自校の児童・生徒指導の基本方針、学校生活のきまりなどについて説明する。

(2) 児童・生徒指導に関する情報発信

- ・学校通信やホームページ等を活用して、適時に適切な児童・生徒指導に関する情報発信に努める。

2 保護者との連携強化を図る手だて

(1) 保護者会

- ・教師の教育に対する思いや経営方針等を話し、子どもに対する姿勢や思いを理解してもらう。
- ・温かく和やかな雰囲気の中で懇談し、教師と保護者の信頼関係、保護者同士の人間関係を深める。
- ・子どもの思いや様子について情報交換する。

(2) 家庭訪問

- ・年度当初の家庭訪問の目的の一つは、家庭環境を知ることである。また、教師は子どもの学校での様子や教師の思いを伝え、保護者からは子どもに対する思いや学校への要望等を聞くことにより相互の理解を深める。
- ・登校しぶりが見られたり、事故やトラブル等があったりした場合は、迅速に保護者と連携をとるため臨時に家庭訪問を行うことがある。事実をきちんと話し、保護者から十分話を聞いてともに協力していく関係をつくる。

(3) 教育活動への理解の場の設定

- ・PTA総会や授業参観、学校行事だけでなく気軽に保護者が学校に来るように配慮し、様々な教育活動を実際に見てもらおう。そして教育活動に対する理解を深めてもらう。

(4) 日常的な連携

- ・電話連絡、学級通信や連絡帳などを活用して子どものよい点を報告したり、連絡帳に保護者からコメントを記入してもらったりして、日頃から保護者の意見や情報を得やすくする関係づくりに努める。

保護者との連携の基本

学校と保護者が連携するには、保護者の理解を得、教師と保護者の信頼関係を築くことが重要である。そのためには、「子どもたちがよりよく育っていくために」という思いに基づく子どもへの接し方が大切である。

そのための保護者に接する基本的な姿勢を示す。

共に子どもを育てるという姿勢
誠意をもった対応
誠意をもった発言
立場の異なる教育観の理解
親の努力への理解
不安感の排除
なれ合いと迎合の回避

相談や問い合わせの際のポイント

「困っている（苦戦している）子」、「悩んでいる保護者」という視点で捉える。

保護者の子育ての苦勞を思い、認め、ねぎらう姿勢を示す。

過去に原因を求めるのではなく、子どもの未来を考えてどうなればよいか、そのためにはどうしたらいいかという視点で協力（連携）を考える。

何か気になることがあったら、お互いに早いうちに連絡を取り合う。

信頼は大切だが、分かってくれているだろう、言わなくても大丈夫だろうという思い込みは禁物。手を抜かずに、こまめに、丁寧に確認を行う。

「学校からの連絡＝悪い知らせ」という図式を「学校からの連絡＝色々なことが分かる（楽しみ）」に変える。

「何をどのようにしたらいいのか一緒に考えましょう」という姿勢を伝える。

自分の考えの正当性を理論的に伝えるよりも先に、まず相手（保護者）の立場に立って気持ちを理解しようとするのを心がける。

性急すぎると保護者の不安をあおり、消極的過ぎると保護者の不満を招く。じっくり、ゆっくり、丁寧にしかかわる。

間違った対応をしてしまったら、きちんとを謝罪する。

学校への意見は傾聴し、誠意をもって対応する。

常日頃から保護者とのコミュニケーションを図る努力をしておく。

参考資料

- ・児童・生徒指導資料「児童・生徒指導の充実を目指して」(H15.11 県教委)
- ・学級・ホームルーム担任のための教育相談第13集「保護者との連携を深めるために」(H17.3 総教セ)